



たけはら いずみ 議員 竹原 泉

創生総合戦略の一環として 駅前市街地に活性化拠点を

議員 JR 駅前西部に市民交流拠点や特産品直売所、観光サービス発信基地、学習教室、情報コーナーや市民浴場で構成する「市民総合交流センター」の建設を提案する。「見える形」のランドマークとして、笠岡発信基地となる公共交通のベース基地ともなり、笠岡の顔としての核拠点となるが。

市長 JR 周辺の拠点整備という提案で、市としても、ボーリング場の跡地利用は全然考えてないことではなく、新たな提案として受けとめる。ただこういった多機能な施設ができるか、というところまでまだ至ってはいない。



笠岡型シニア・アクティブ 構想の政策化を

議員 人口構成において最大のパーセンテージを占める団塊世代を含むリタイア後のシニア層エネルギーの参入が若者との連携により相乗効果となる。シニア活躍の場所を提供し、地域循環経済の水準を上げつつ地元での雇用創出に力点を置いた政策が必要と思うが。

政策部長 シニアの活動においては、時代に合った特色ある地域をつくり、地域間の連携を進めるため、年配の方に多く参加いただいているまちづくり協議会の活動も積極的にバックアップしていく。技術の伝承についてはお年寄りに活躍いただき、それを若者に伝承することで引き継いでいく。

若者とお年寄りが一緒に活躍していくというところで新たな雇用も生み出していくという事も創生総合戦略の中で考えている。



おおもとますゆき 議員 大本 益之

どうする？どうなる！市民病院改革 信念ある取り組みを求める

議員 岡山県の地域医療構想を盛り込んだ保健医療計画素案が示されたが、市民病院基本方針に沿った進捗状況と今後のロードマップについてたずねる。関係機関との連携及び医療と介護の連携拠点機能についてはどうか。

市長 市民病院は地域包括ケアシステムの構築を目指し、市民の生命と健康を守るため、笠岡市は中核病院として救急受入れ、在宅医療支援、病病、病診間の連携及び医療と介護の連携拠点機能を担う。その実現に向けて、笠岡市の関係課と共同で地域包括ケアチームを設置し検討を重ねている。

議員 老朽化への対応は。

市長 建替えに向け、来年度から計画的に着実、確実に進め、まず



基本計画の策定に着手し、この計画に密接な関係を持つ市民病院改革プランを平成28年度に策定する。

議員 診療体制と規模については。

市長 岡山県保健医療計画南西部保健医療圏で必要とされる急性期病床削減と回復期病床増床を視野に、基本計画の中で方向性を出す。

議員 人材確保については。

市長 医師の奨学金制度創設とともに、再々岡山大学に向くなど努力を重ねている。幸い4月に小児科、6月に産婦人科に数年ぶりに常勤医をお迎えできた。さらに4月に皮膚科、11月に内科医師各1名を確保できたところであり、今後も全力で取り組む。